

※ 一部非公開

令和7年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

国際地域創造学部 国際地域創造学科

（昼間主・夜間主コース）

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

問 以下の文章は、グローバリゼーションがもたらした近年の芸術と地域との関わりについて書かれたものである。これを読んで、下の(1)、(2)、(3)、(4)について答えなさい。

※ 非公開

※ 非公開

(藤田直哉,『地域アート 美学／制度／日本』,堀之内出版,2016年,223～225ページ。本文を抜粋・一部改変)

出題者注

- 1) 創造都市 (Creative city) とは, 文化芸術と産業経済との創造性に富んだ都市のことであり, 産業空洞化と地域の荒廃に悩む欧米の都市など, 世界中の多数の都市において, 行政, 芸術家, 文化団体, 企業, 大学, 住民などの連携のもとに進められている。
- 2) ジェントリフィケーション (gentrification) とは, 移住者などを中心に地域に住む人々の階層や所得が上がり, 地域の建物が新しくなる, 家賃や地価が上がるなどのことが生じることである。他方では, 以前から住んでいた人が在住し続けることが難しくなり, 居住環境の劣る場所へ転居することを余儀なくされることも多い。
- 3) 功利主義とは, 諸個人の利益を最大化することである。
- 4) 社会工学とは, 工学的手法を用いて社会問題の解決方法を生み出そうとする研究分野、あるいはその実践のことである。
- 5) アート・プロジェクトとは, 芸術を芸術としてのみ考えるのではなく, まちづくりなど他の分野と結び付き, 社会の仕組みへ働きかけることである。
- 6) 搾取とは, 乏しいものを無理にとることである。

- (1) 問題文にある①「ジェントリフィケーション」について、あなたがそうだと思う事例を、それがジェントリフィケーションだと考える理由を含めて、200字以内で書きなさい。
- (2) ②「文化資源の格差」について、あなたの知る、あるいは「格差」があると思う地域とその具体例について200字以内で書きなさい。
- (3) 「文化資源の格差」を埋めていく手段として問題文の中では、各地域がもっているものと失ったものを③「地域、都市、世代、ジャンルを超えて互いに交換する」ことに求めています。この「交換」とはどのようなものと考えられるのかについて、インターネット、SNS、動画、画像、デジタル（技術）などの言葉、あるいはそれ以外の言葉を用いて、あなたの考えを200字以内で書きなさい。
- (4) 以上の問題文と自身の解答を踏まえて、「グローバリゼーション」について、あなたの考えを600字以内で書きなさい。

令和7年度入学試験問題（前期日程）

小論文

国際地域創造学部

出題の意図

この小論文の出題の意図は、現代社会のあり様に対して、ポジティブな面とネガティブな面（長所短所でも良い）を受験生（高校生）なりにつかんでいるかを、グローバリゼーションに則した問題文の理解度を通して測ることにある。

また、SDGsが進められる世界の中で、一方で世界の大きな流れである「グローバリゼーション」に「世界が一つになること」という理解に留まらないような関心をもっているか、他方で、「地方創生／地域再生」が進められている日本において、受験生各自の身近なところで起きていることについて、普段の生活の中で関心を持っているか、大雑把にでも何が起きているかを観察しているかということ、社会に対する関心の度合い、および高校等の授業で得た知識の定着度を測るものでもある。

この問題は、アドミッション・ポリシーの①「地域の文化・社会について多様な学問的見地から興味を持つ」ということ、および②「現代の地域・国際社会をめぐる多様な課題に対して関心を持つ」ということ、さらに③「21世紀型市民として必要な学際的教養を身につける意欲を持ち、他者や異文化の持つ多様な価値観に対して柔軟な態度を身につけることができるかどうかを、高校生のレベルで捉えようとするものである。